

#### 4) 実施状況

航次	調査年月日	船名	観測点数	調査員	観測定線名※
1	昭和 55. 5.22~23	くろしお	18	山本・金城	沖縄南部、金武湾
2	昭和 55. 6.12	"	10	川崎・兼浜	沖縄南部
3	昭和 55. 7.23~24	"	8	喜屋武	金武湾
4	昭和 55. 8.20~21	"	10	金城	沖縄南部
5	昭和 55. 9.24~25	"	18	"	沖縄南部、金武湾
6	昭和 55.10.29~30	"	10	"	沖縄南部
7	昭和 55.11.21~22	"	8	"	金武湾
8	昭和 55.12.16~17	"	10	"	沖縄南部
9	昭和 56. 1.28	"	8	"	金武湾
10	昭和 56. 2.18~19	"	10	"	沖縄南部
11	昭和 56. 3.30	"	10	"	沖縄南部

※沖縄南部とは、沖縄南部沿岸定線、金武湾とは、金武湾沿岸定線である。

#### II 調査結果

##### 1. 沖合定線調査

(a) 第1次航海：観測期間 昭和55年5月29日～31日

黒潮は、流速1.1～2.0ノット、流幅約30～40浬、流向は北東で流路は久米島北西沖では大陸棚斜面から離れ、伊江島北西沖では接している。伊江島～久米島間に1ノット以上の南下流がみられ、また久米島南側にも1ノット以上の南下流がみられる。

表面水温は、全体的に平年に比べ高く最高2℃程高い。伊江島の北西の黒潮反流域は、低温高鹹である。100m層は17～24℃で、黒潮域は23～24℃である。200m層は13～21℃、St. 3～4、St. 10～12の間には20～21℃の高温帯がみられる。

St. 4～5及びSt. 10の100～300m層で温度傾度が大きく、それより南東方向ではなだらかである。これは、黒潮の流軸が久米島沖で沖縄島寄りに、伊江島沖で大陸棚斜面に接していることを示し、G E Kの流況観測とよく対応している。

黒潮流域の150～200m層には35.0%台の高鹹水がみられる。

(b) 第2次航海：観測期間 昭和55年8月19日～21日

黒潮は、流速1.0～1.4ノット、流幅30～40浬で、前回(5月)に比べ流軸は大陸棚側に寄っており、特に伊江島北西沖では大陸棚斜面に沿って流去している。伊江島～久米島間及び久米島の南には弱い南下流がみられる。

表面では、沖縄島近海で31℃台、34.70%台と高温高鹹で、大陸棚上は34.00～34.20%